

平成 16 年台風 18 号による被害復旧森林の生育状況について

～「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」（第 2 報）～

NPO 法人支笏湖復興の森づくりの会 理事 石田 守雄
一般財団法人セブン-イレブン記念財団 事務局 小野 弘人
石狩森林管理署 小林 大樹

1 はじめに

平成 16 年 9 月、北海道地方を襲った台風 18 号により支笏湖周辺の国有林は 7 千ヘクタールにわたり大きな被害を受けました。この森林の復興にあたり市民・企業・行政による「協働の森づくり」の取組みとして、セブン-イレブンみどりの基金により 100ha の大地に 10 万本の植樹が行われました。

その後、この取組みを「NPO 法人支笏湖復興の森づくりの会」が引き継いで植栽箇所の保育作業等を行い、被害を受けた森林は確実によみがえりつつあります。

平成 18 年度、「市民参加型の協働の森づくり」について第一報を報告してから 6 年が経過したことから、その後の取組みや植栽木の成長状況、今後の課題についてとりまとめたので第二報として報告します。

2 事業の概要

この地域は、昭和 29 年にも台風 15 号（洞爺丸台風）による森林被害が発生したところで、先人の努力により復興した素晴らしい人工林や天然林が広がっていました。その森林が今回の台風により、再度、一夜にして無惨な姿に変わってしまいました。この森林を再生するために、地域住民をはじめ、NPO 団体、森林に関わりのあるボランティア団体、学校などからも「森づくり」をしようとの声ができ、平成 18 年、「支笏湖復興の森づくり実行委員会」を立ち上げ、市民参加型の「協働の森づくり」の取組みを開始しました。



写真 1 被害直後の森林

この取組みには 128 団体が参加し、地元で共通の趣味を持っている方、民間企業、NPO 団体、各種ボランティア団体など、多種多様な業種の方々と、全く森林・林業にふれなかったことのない団体も多数参加されています。セブン-イレブンみどりの基金からは地植え経費や苗木代などの事業費、石狩森林管理署からはフィールドの提供と技術指導などの支援をいただき、アカエゾマツなど 10 万本の苗木を 100ha の土地に植樹しました。

平成 21 年からは植樹が一段落したこと、実行体制を当「NPO 法人支笏湖復興の森づくりの会」が継続して、森づくり活動を展開してきました。下刈や補植、広葉樹の記念植樹等のほか、「森の育て親」が担当する区画の保育についてのアドバイスや、森林観察会や天然更新箇所へのマカバの種子のまき付けなども体験林業の一環として企画・実行してきました。

3 森の育て親同窓会

平成 20 年秋、植樹に参加した団体の皆さんから「これからも下刈や成績調査などで森に入り、森林・林業に関する知識を深めていきたい」との要望が出されました。その要望を受け検討した結果、平成 21 年以降の森づくりに関する活動は「育て親同窓会」として取り組むことを決定しました。

(1) 春の同窓会

春の取組みとしては、補植や天然更新の筋にマカバの種子を蒔き、天然更新の補助作業などのほか、山菜取りを兼ねた野草観察会・山菜試食会、ナメコの駒打ち体験なども実施しています。

参加者数は、平成 20 年の 47 団体 494 名をピークに減少傾向にあります。



写真 2 ナメコの駒打ち

(2) 夏の下刈

下刈は、毎年 7 月から 8 月上旬にかけて手鎌を基本に一部では刈払機も使いながら 2 回刈で実施しています。当初、平成 22 年からは 1 回刈とする予定でしたが、育て親が苗木の生長をより期待してか 2 回刈りを現在も継続しています。暑い時期の作業であり、下草が年々多くなることから、森づくりでは最も重労働ですが、平成 24 年には約 1 千名が参加し、参加者数は微増傾向にあります。



写真 3 下刈

(3) 秋の同窓会取組み

秋の育て親同窓会の活動として、主に 2 つの活動があります。

① 成長調査

自分たちの受け持っている植栽地において、苗木の成長、天然更新地の稚樹の発生状況等の調査を、参加者自らが自分たちの手で毎年記録します。自分達の担当する区画の生長を客観的に知ることができることから、多くの育て親が楽しみにしている作業です。



写真 4 成長調査

② 自然観察会

参加しているNPO団体に協力をお願いし、自然観察会を行っています。平成 23 年度には、札幌キノコ会や藻岩山キノコ愛好会の皆さんによるキノコ鑑定会を実施しました。「キノコ汁」の差し入れなどもあり、秋の自然を楽しむ企画でもあります。

秋の同窓会の参加者数は減少傾向にあり、平成 24 年には 25 団体 178 名の参加にとどまっています。

4 成長調査

秋の取組みとして行っている成長調査の結果をまとめてみました。

(1) 植栽地

調査方法は、それぞれの団体毎に 50 本の調査木を選定し、毎年樹高を計測しています。調査結果をもとに林班毎の平均値を計算した結果、植栽 5 年後の樹高は、最も成長の良い 5280 林班では 111 センチメートル、最も成長の遅い 5311 林班では 77 センチメートルと、33 センチメートルの差が出ています。

原因の調査はしていませんが、全林班で当年成長量が増加してきていることから、今後の成長を楽しみにしています。

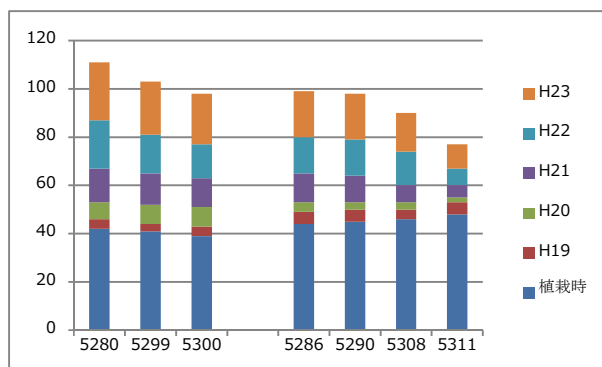


図 1 植栽地の樹高成長

(2) 天然更新地

調査方法は、それぞれの団体毎に 4×5m の標準地を設定し、発生した樹種毎の地樹の本数を毎年調査しています。平成 23 年の調査結果では、24 種、ha あたり約 3,500 本の稚樹を確認し、そのうちシラカバが 1,940 本と半分以上を占め、次いでヤチダモが 284 本、ハンノキ、マカバの順になっています。

稚樹毎の確認本数の推移を見てみると、シラカバは平成 23 年では平成 19 年度の約 2 倍に本数が増えています、他の樹種は減少傾向にあります。

平成 24 年のシラカバの樹高は、5290 林班では平均 220 センチメートル、5308 林班では 160 センチメートルまで生長していました。

平成 24 年の天然更新の筋の植生の状況は、裸地状態であった筋が 5 年経過し、林地の被覆率は約 80%となっています。主な

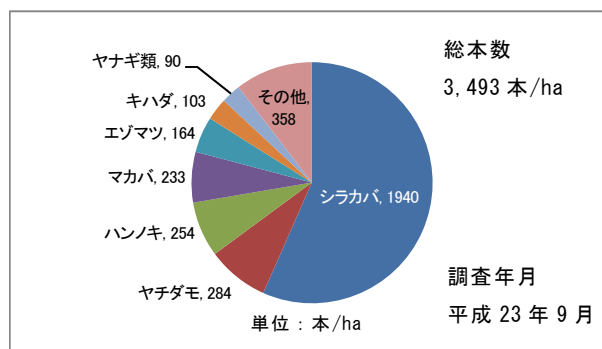


図 2 天然更新樹種割合

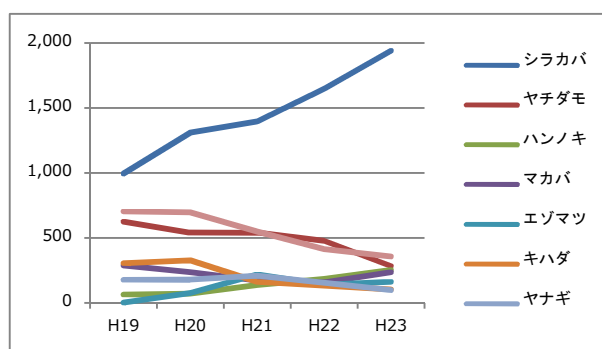


図 3 樹種別確認本数の推移

植生種は、外来種のアワダチソウが 35%と最も多く、次いでキイチゴ属が 24%、ヨモギ 17%となっています。外来種が繁茂してきていることから、今後とも推移を見守る必要があります。

5 アンケートの実施

10 年間を目途に「復興の森づくり」の取組みを行ってきましたが、11 年目（平成 29 年）以降の参考にするため、平成 24 年 10 月、「育て親」が今後の森づくり活動に対してどのように考えているか、事務局がアンケート調査を行い、育て親 109 団体のうち 67 団体(62%)から回答を得ました。

今後参加したいと思う活動は何か（複数選択）

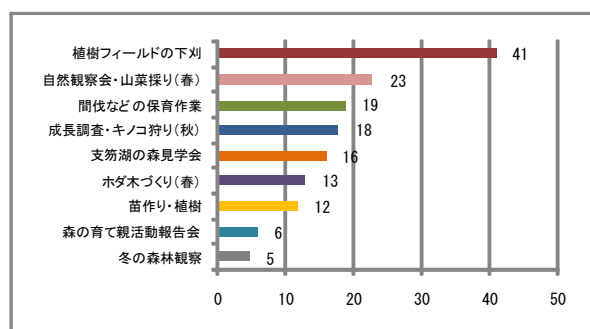


図 4 アンケート結果(1)

11 年目以降の森づくり活動について（複数選択）

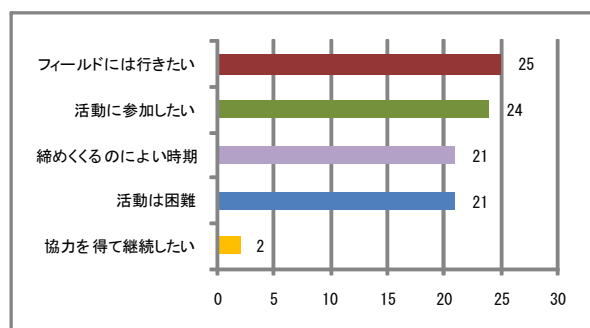


図 5 アンケート結果(2)

「今後、参加したいと思う活動は何か」との質問に対し、「自分たちの植樹フィールドでの下刈」が最も多く、次いで「春の自然観察会・山菜採り」、「フィールド近くの森林の保育作業(除伐、間伐、つる切り、枝打ち)」、「秋の苗木の生長観察、キノコ狩りなど」と続き、これまでの「森づくり活動」の継続を望む声が多くありました。

取組みの開始から 10 年経過した「平成 29 年以降の森づくり活動」について質問したところ、「森づくりの活動は不明だがフィールドに行ってみたい」、「11 年目以降も森づくり活動に参加したい」という、何らかの形で関わりを持っていきたいとする意見と、「締めくくるのによい時期」、「活動は困難」との回答もほぼ同数ありました。

その他自由意見としては、「興味をなくしつつある」、「保育は専門家に任せるべき」などの活動を終了したいとする意見や、「交通手段や高齢化などにより継続できない」、「森林に自由に立ち入れない」など、山には

行きたい気持ちはあるが行けないという意見、「成長したフィールドを今後も見たい」、「周辺の森林の整備や新たな箇所での活動を行いたい」といった、森とのふれあいを継続したいとする意見が寄せられました。

6 今後の取組み・課題

事務局として、これら取組みの成果とアンケート結果をもとに「今後の取組み・課題」を理事会等で検討しました。その結果、

1. 市民参加型のモデル林として今後の森づくりに役立てるための「成長調査の継続」
2. 針広混交林へと誘導するため、更新状況に応じて「山取り苗の植え込み」
3. 市民参加型の森づくり活動の輪を広げるため、フィールド周囲での「植樹活動」
4. フィールドに隣接する造林地での間伐や枝払いなどの「体験林業」
5. 活動を取組んだフィールドを活用した「小中学生などを対象とした森林環境教育」
6. これまでの活動結果を記録するとともに、広く発信するための「記念誌の発行」

などについて、今後、継続して取組みたいとする「育て親」と協議し、活動内容を検討することとしています。

「森の育て親」の活動がフィールドワークの主役であり、この森づくりに関わった多く地域住民の汗により、森林が風雪に耐え大きく育つものと固く信じております。

事務局として、「これからも支笏湖周辺の森づくりに関わっていきたい」「山や森にふれあいたい」という「育て親」の声を大事にしていきたいと考えています。



写真 5 森づくり活動の参加者